

令和3年度和歌山県立紀伊風土記の丘評価

|                       |  |
|-----------------------|--|
| <p>紀伊風土記の丘館長による評価</p> | <p>岩橋千塚古墳群の整備・公開、資料の収集・保存、調査・研究、展示、教育・普及などの業務を積極的に推進している。</p> <p>古墳群の整備事業では、令和2年度に策定した特別史跡岩橋千塚古墳群第3期整備事業計画に基づき、整備事業を推進した。具体的には、天王塚古墳の整備として、連絡道路整備工事のほか、古墳整備の実施設計を実施した。前山A13号墳及び大日山35号墳の排水施設の実施設計を実施した。</p> <p>教育・普及については、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、体験事業等を中止・制限した。その中、小学校等へ直接出向いて行う出前授業は、前年度並み(参加人数は前年を上回る。)の実績を残すことができている。</p> <p>新館建設事業では、建設用地において確認調査を実施した結果、埋蔵文化財の遺存状況を確認した。今後、埋蔵文化財の保護を図りつつ建設用地の利用について検討するための基礎資料を得ることができた。</p>  |
| <p>評価部会による評価</p>      | <p>コロナ禍により制限せざるを得ない事業もあるなか、天王塚古墳をはじめとする岩橋千塚古墳群の保存整備のほか、諸々の事業を献身的に進めたものと評価する。</p> <p>岩橋千塚古墳群の保存整備事業は、承認された計画に基づいて着実に実施し、天王塚古墳本体の整備に着手できる条件を整えるとともに、既整備古墳2基の石室の環境改善に取り組み、利用者の見学条件の向上に努めている。</p> <p>博物館活動では、着実な調査・研究を進めて計画通りの展示を実現し、成果を公表するとともに、収蔵資料の再整理と目録化に取り組み、不足するスペースを精一杯活用しての収蔵資料の学術資料化を進めている。</p> <p>また、事業の実施方法の工夫に努め、入館者は次第に回復しつつある。人材育成や教育支援に関わる事業も、増加させつつある。</p> <p>特別史跡岩橋千塚古墳群を有し、また考古学と民俗学の両分野にわたる調査研究・展示公開を行う県立施設として、特色ある活動を展開できている。</p> <p>なお、新館建設に向けて各事業が進められている点も喜ばしい。未来の和歌山県のために、博物館に関わる事業が確実に進むことを切に望む。</p> |

## 1. 岩橋千塚古墳群の保存整備・公開

|           |  |
|-----------|--|
| 館長による所見   | <p>岩橋千塚古墳群の整備事業は、第3次整備事業計画に基づき、実施した。<br/>天王塚古墳の連絡道路整備は、国の予算の関係もあり、当初工程よりも遅れているものの、令和4年度中には完成する予定であり、全体工程への影響は発生しないように進めている。また、墳丘並びに石室の整備工事の実施設計を行い、全体計画に従って、順次整備工事を実施していく。<br/>前山A13号墳・大日山35号墳の横穴式石室では、滞水が問題となっているため、排水施設の実施設計を実施した。今後、排水施設工事に着手し、公開に向けた準備を行う。<br/>さらに、日常的な管理も、来園者の安全を確保しつつ、計画的に実施している。</p>  |
| 評価部会による所見 | <p>古墳群の保存・整備事業は、紀伊風土記の丘に課せられた重要な使命である。<br/>岩橋千塚古墳群の保存整備事業は、第3期整備事業計画に基づき、限られた予算のなか、順調に保存整備が推し進められていると評価する。<br/>当面の最重点項目である天王塚古墳の整備は、管理・見学用通路の施工完了の見通しが立ち、墳丘と石室保存工事の実施設計の段階に到達している。<br/>前山A13号墳と大日山35号墳の石室の環境改善のための調査と実施設計を順調に行っており、令和4年度実施予定の両古墳石室の排水施設工事が、無事完了することを望む。<br/>古墳群全体に対しては、来園者の安全を確保しつつ、計画的に日常的な管理を実施している。大変な労力を要するが、園内の全古墳のカルテを作成し、経緯を見守れるように期待する。石室のモニタリングに少トラブルを生じたようであるが、事業全体が着実に進んでいる。<br/>新館建設に伴う事前発掘調査に際しては、新発見の古墳の現地説明会を開く一方、動画配信を行うなど、新たな成果公開の試みを進めている。</p> |

### ①古墳群の維持管理

#### A. 日常的なメンテナンス等による施設の美観の保持、衛生管理

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 館の業務員により月・週単位で計画的に実施。急を要する場所が出た場合は優先的に実施。大規模な整備・営繕等は緊急性を考慮し予算内で実施。  |
| 自己評価・課題・改善案 | 業務員による日常的な園内の管理・清掃により美観が保たれており、園内を周遊する来園者に好評である。<br>台風等による土砂の流出にも対応しているが、園路は広範囲であり、優先順位をつけ、予算内において補修・整備をする。 |

#### B. 古墳群の日常的な保守管理

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 館の業務員により月・週単位で計画的に点検を実施。特に草木の伐採は優先順位をつけて実施。業務日誌をつけて点検箇所を確認する。 |
| 自己評価・課題・改善案 | 草木の伐採は、年間でスケジュールを組んで計画的に行っている。多数ある公開古墳周辺を中心に、草木の伐採を実施した。      |

### ②保存・整備

#### A. 使命・計画に基づいた保存整備

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 整備検討会及び文化庁の指導を得ながら第3期整備計画に基づき整備事業を進める。                          |
| 自己評価・課題・改善案 | 整備検討会を2回開催するとともに、文化庁担当官による現地指導を得て、その内容を整備工事の実施計画に反映して、整備事業を進めた。 |

## B. 古墳群の整備・修景

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 天王塚古墳の整備実施設計を行うとともに連絡道路の設置事業を完了する。崩壊の危険がある古墳の埋め戻しと修景工事を実施する。事業は国庫補助を受けて行う。 |
| 自己評価・課題・改善案 | 天王塚古墳連絡道路の設置事業は完成が遅延し、令和4年7月に完成の予定であるが、整備実施設計は完了した。大日山1号墳の埋め戻しと修景工事を実施した。  |

## C. 展示及びその他の博物館活動への反映

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 発掘調査・整備成果を展示及び博物館活動へ反映するとともに教育記者クラブ等への資料提供などにより県民及び県外への広報を行う。 |
| 自己評価・課題・改善案 | 大日山35号墳発掘作業風景、県立考古民俗博物館(仮称)建設予定地の発掘調査について、公開を行い、117名の参加があった。  |

## D. 学術的公表(報告書等)がなされているか。

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 年報・紀要に学術的公表を含む報告を掲載する。   |
| 自己評価・課題・改善案 | 『令和2年度紀伊風土記の丘年報』第48号・『紀伊風土記の丘研究紀要』第10号を刊行し、出土品に関する分析等について掲載した。 |

## E. 古墳群の管理

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 古墳カルテの更新、石室のモニタリングを計画どおり実施する。   |
| 自己評価・課題・改善案 | 古墳カルテは翌年度の更新を予定しており、継続的に実施していく。石室のモニタリングについては、遺漏があったことから、計画どおり実施するよう是正する。 |

### ③公開・活用

#### A. 計画的な公開

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 公開古墳は引き続き石室等を安全に見学できるように対応する。非公開古墳は期日を定めて石室を公開し、県民に周知する。                        |
| 自己評価・課題・改善案 | 公開古墳のうち、前山A13号墳、大日山35号墳では、公開に向けて、排水施設の実施設計を実施した。今後、排水施設設置工事を実施し、公開に向けた作業を進めていく。 |

#### B. 利用者の満足度、ニーズなどの調査

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 園路設置の意見箱を活用するとともに、来館者へのアンケートで整備に関する意見についても追加して満足度とニーズを把握する。 |
| 自己評価・課題・改善案 | 特段の意見はみられなかったが、散策者や学校関係者等から、古墳群の見学・体験について高い評価を得ている。         |

#### C. アンケート調査結果の公開活用事業への反映

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | アンケート分析結果について必要な内容を抽出し必要に応じて整備計画に反映する。                     |
| 自己評価・課題・改善案 | 日頃からイベントなどで行っているアンケートのほか、公開活用事業へ反映できる意見を抽出できるよう聞き取り調査を進める。 |

## 2. 資料の収集、保存、保存環境の整備

|           |   |
|-----------|---|
| 館長による所見   | この数年の間の課題となっているが、資料の収蔵スペースが不足しているが、資料の購入や寄贈の受け入れは、現状のまま進める。<br>収納・保存は、県教育委員会と協力して適切に移動等をおこない、良好な保存環境を確保していく。<br>新館建設においても、十分な収蔵スペースの確保を行う。  |
| 評価部会による所見 | 収蔵スペースの不足を以前から指摘されつつも、県の施設として必要な資料の購入や受け入れを継続している点や収蔵資料の点検と整理を進め、学術資料として適切に公開・活用できる条件整備に取り組んでいる点も評価する。<br>和歌山県教育庁や(公財)和歌山県文化財センターの発掘資料をどう扱うについて対処法を適切に検討されたい。<br>令和4年度の企画展で和歌山県の考古学史を取り扱うので、学史関係資料も積極的に収集することを望む。<br>新館建設に際しては十分な収蔵スペースを確保し、数多くの資料が収蔵できることを望む。<br>収蔵資料の質と量が博物館活動を支えるので、この点が理解されて新館構想にも反映されることが喜ばしい。今後とも積極的に資料の収集と保存に努めることを望む。 |

### ①資料収集

#### A. 適正な手続きに基づく資料の収集

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 適正な手続きに基づき資料を収集する。資料収集方針について館内で検討する。                    |
| 自己評価・課題・改善案 | 民俗資料3種の寄贈を受けた。寄贈申し出であった場合における受贈基準及び資料収集方針の策定が、今後の課題である。 |

### ②資料の保存

#### A. 資料の保存環境は適切か。

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 温湿度データを取得しながら壁面ケース等湿度管理のできない展示ケースについての対応策を検討する。                                 |
| 自己評価・課題・改善案 | 年間を通して温湿度データを取得した。特別展等で借用する資料のうち、特に温湿度管理の必要な金属製品・木製品、文献史料等についてはエアタイトケースを使用している。 |

#### B. 資料の保存処理

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 岩橋千塚古墳群出土品を中心に保存処理が必要な金属器等資料のリストアップを行い、金属収蔵室で保管する。予算状況に応じて順次保存処理を実施するとともに、保存処理の優先順位が低い資料についてはRPシステムで応急措置を行う。   |
| 自己評価・課題・改善案 | 金属製品は、金属収蔵室で保管している。保管状況から保存処理が必要とみられる資料168点を把握した。また保存処理未実施資料等のうち、大谷山16・17号墳出土品など57点をRPシステムにより脱酸素・低湿度での保管環境を確保する作業を実施した。今後、計画的に保存処理の実施及び適切な保管作業を実施する。 |

#### C. 資料の整理

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 収蔵資料の再整理を行う。また、西庄遺跡の出土資料について、重要文化財指定を目指した整理を行う。  |
| 自己評価・課題・改善案 | 西庄遺跡出土資料について、重要文化財指定のための資料目録約9割を作成した。ただし、学芸員による確認作業は6割に止まる。令和4年度中に資料目録を作成し、文化庁文化財調査官による重要考古資料に係る整理指導を受けて、早期の重要文化財指定を目指す。 |

### ③資料の管理

#### A. 資料の点検

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 毎日、開館前と閉館時に展示室及び収蔵施設の資料について目視点検チェックを行う。                      |
| 自己評価・課題・改善案 | 展示室・収蔵庫内の資料及び展示・収納ケース内の以上のないことを目視で点検するとともに、温湿度を器財を用いて点検している。 |

#### B. 資料の管理(台帳、データ)

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 収蔵資料の再整理を行い台帳・データベースを作成し、管理を行う。                             |
| 自己評価・課題・改善案 | 柳川家旧蔵の民俗資料について整理し、259件分の目録を作成した。その内容については、紀伊風土記の丘研究紀要に掲載した。 |

### ④資料の活用

#### A. 他機関への資料の貸出

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 他機関への収蔵文化財の貸出を行い、収蔵文化財の活用を推進する。   |
| 自己評価・課題・改善案 | かつらぎ町教育委員会へ船岡山遺跡、上野廃寺出土遺物等の貸出を、岩出市教育委員会へ根来寺遺跡出土遺物の貸出を実施する等、継続的な資料の活用を図っている。 |

#### B. 図書の収蔵

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 報告書等の寄贈図書について再整理を行い、使用頻度の低い図書を収納スペースを確保することにより効率的な活用ができるよう整備する。                  |
| 自己評価・課題・改善案 | 寄贈図書については、押印、リスト登録を行って、活用に備えている。使用頻度の高い図書は、常時活用できる状態で保管し、活用頻度の低い図書は収納のうえ、保管している。 |

#### C. 資料のデータベースの公開

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 近年の追加資料のデータを整理後公開する。3Dデータの蓄積を図る。  |
| 自己評価・課題・改善案 | 三次元データの公開には至っていないものの、大日山35号墳・大谷山22号墳・前山A47号墳の3古墳の三次元データの取得を行った。今後、公開に向けた準備を進めていく。 |

### 3. 調査・研究及び展示・公開

|           |  |
|-----------|--|
| 館長による所見   | <p>特別展、企画展とそれに関連調査・研究については、ほぼ計画どおり実施できている。</p> <p>特別展は、紀伊半島という地理的特性を生かして、沿岸に暮らした先人たちが海とともに生き、恵みや富を得るために、海の道を往来した歴史を、考古資料と民俗資料を中心に展示を行った。</p> <p>企画展は、獅子頭・箱式石棺・古代の紀伊国について、展示をおこなった、展示図録を作成していない。今後の課題である。</p>   |
| 評価部会による所見 | <p>特別展や企画展を実施するためには、調査研究の積み重ねが求められる。特別展「海に挑み、海をひらく」が好評のうちに幕を閉じたのは、豊富な調査・研究が実施されたからと判断でき、博物館の力が発揮された結果といえる。</p> <p>特別展、企画展など地理的特性を生かした企画が進んだものと評価する。特別展の展示内容はよかったので多くの人見てもらいたかった。新博物館の展示に活かされることを望む。</p> <p>立地や収蔵資料からくる館の特徴を前面に出し、かつ所属する学芸員の専門性を活かしながら着実な調査・研究を進め、成果を研究紀要として発表するとともに、計画通りに展示・公開を実施している。</p> <p>年間の特別展1、企画展3という基本構成は、所属する学芸員数からみて最大限の回数で、これにスポット展示や収蔵展示を加えると相当な努力を継続して実施していることが窺われる。</p> <p>展示も、特別展・企画展は充実した内容であり、常設展示も見やすく解りやすいものになっており、日常的に細やかな配慮をしていることが窺われる。</p> |

#### 3-1. 調査・研究

##### ①調査

##### A. 計画に基づいた調査・研究

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 各機関へのアンケート、文献・資料調査等、展覧会に関連した調査・研究を行う。  |
| 自己評価・課題・改善案 | 特別展「海に挑み、海をひらく」の展示に関連する悉皆調査及び研究を行った。この他、企画展の開催に関連して、調査研究を行った。展覧会に係る調査研究以外の基礎的調査や研究を実施可能な体制整備が今後の課題である。 |

##### B. 外部機関・団体等との共同調査・研究

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 他業務とのバランスをみて実施を検討する。   |
| 自己評価・課題・改善案 | 和歌山大学と協力し、和歌山大学所蔵伝岩橋千塚古墳群出土資料の共同調査・研究を実施した。その成果はスポット展及び『紀州経済史文化史研究所紀要』に発表した。さらに、京都橋大学と協力し、古墳時代の調理方法について復元土器を用いて実験を行った。 |

##### ②調査・研究成果の活用

##### A. 展示及びその他の博物館活動への成果の反映

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 調査・研究成果を特別展等で活用し、広く県民に広報する。  |
| 自己評価・課題・改善案 | 各企画展の展示講座と、特別展講座5回、特別展シンポジウム1回を開催し、展示内容を広く県民に広報した。今後も、展示への理解が深まるよう努め、展示と関連したイベントを企画する。 |

##### B. 学術的公表(館研究紀要、学会誌等)

|             |                                       |
|-------------|---------------------------------------|
| 令和3年度目標     | 館研究紀要等に調査・研究成果を公表する。                  |
| 自己評価・課題・改善案 | 『紀伊風土記の丘研究紀要』第10号を刊行し、調査研究成果を15本掲載した。 |

### 3-2. 展示・公開

#### ①常設展

##### A. 計画的な展示替え

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 特別展後などの期間を利用し、岩橋千塚を中心としながらも通史、県内の民俗文化財を把握できる展示とする。 |
| 自己評価・課題・改善案 | 企画展・特別展以外に、スポット展2回を含む計4回の展示を実施した。                  |

##### B. 計画的な保守・管理

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 開館前と閉館前にチェックシートを用いた点検を実施。また、重要文化財をはじめとした資料の防犯対策のため、監視カメラでの管理を適正に行う。 |
| 自己評価・課題・改善案 | 開館前と閉館前にチェックシートを用いた点検を実施し、展示ケースの施錠を確認した。                            |

##### C. 入館者情報(年齢層・地域・情報入手手段等)の調査

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | アンケートや聞き取り調査により把握する。より多くの入館者に記入してもらえるよう、アンケートの内容や設置場所の改善とともに受付時に手渡しするなど工夫を行う。 |
| 自己評価・課題・改善案 | 設置場所の改善とともに受付時に手渡しをする等により、アンケート調査を実施し、展示内容の他についての意見も徴取したが、有効な意見は取得できていない。     |

##### D. 入館者の常設展示に対する満足度

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | アンケート調査を分析し、満足度とニーズを把握した上で、展示内容の変更やスポット展等を企画する。                                      |
| 自己評価・課題・改善案 | 常設展については、常設展のみの期間が短く来館者も少ないため、有効なアンケート結果を得ることができなかった。より多くの来館者の意見を聞けるようアンケート方法等を工夫する。 |

#### ②特別展・企画展

##### A. 展示の内容、出品資料、構成、工夫等

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 協議会、整備検討会の意見を受け適正に実施する。  |
| 自己評価・課題・改善案 | 協議会、整備検討会を各2回開催し、意見を受けたため、古代の海域範囲の明示や縄文時代以来の海域を介した他地域との交流とそこで活躍した先人達の役割などを紹介するなど、展示構成に意見を反映した。 |

##### B. 図録・パンフレット等の作成

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 特別展では図録、ポスター、リーフレット、企画展ではリーフレットを作成する。               |
| 自己評価・課題・改善案 | 特別展では図録、ポスター、リーフレットのほか、講座の予稿集を作成し、企画展ではリーフレットを作成した。 |

##### C. 特別展見学者情報(年齢層・地域・情報入手手段等)の調査

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | アンケートや聞き取り調査により把握する。より多くの入館者に記入してもらえるよう、アンケートの内容や設置場所の改善とともに受付時に手渡しするなど工夫を行う。   |
| 自己評価・課題・改善案 | 特別展アンケートは、展示構成の最後にアンケート用紙と投函用の箱を設置して実施し、138件の回答を得た。回答者の年齢層は60歳以上が多いものの、40歳代や小中学生からの回答もあり広い年齢層が観覧した。居住地は県内以外に県外の入館者も多くあり、千葉県から団体で観覧された例もある。特別展を通じて紀伊半島の海辺の生活文化や海を通じた他地域との文化交流史の重要性について紹介し、理解を得ることができた。 |

D. 特別展見学者の展示に対する満足度

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | アンケート調査を分析し、満足度とニーズを把握した上で次年度以降の展示内容に反映する。   |
| 自己評価・課題・改善案 | 期間中に展示室や関連イベントにおいてアンケート調査を実施した結果、展示企画内容について「とても満足」又は「満足」という回答が大半を占め「どちらともいえない」「不満足」という回答はなかった。また県外研究者等による講演・講座は専門領域や時代の異なる専門家を招き、さまざまな視点から紀州人と海をテーマした講演が毎回好評であった。今後の展示並びに関連事業においても、同種事業の実施を検討する。 |

③県民ニーズに即した運営

A. 資料館入館者数:当該年度の入館者数

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 新型コロナウイルスの影響を想定できないため、目標人数は設定しない。他府県も含め、来館のない小中学校を主に訪問しPRする。また、マスコミ活用や公共施設、商業施設へのポスター、チラシの設置等、広報の内容・方法を工夫し、より強化するとともに、県立学校や他の博物館が主催するイベントへ等へも出向きPRを行う。 |
| 自己評価・課題・改善案 | 前年比3,372人増となったが、新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準に戻っていない。  |

B. 入館料収入。当初計画に対する実際の収入達成率

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 新型コロナウイルスの影響を想定できないため、目標収入は設定しない。                                |
| 自己評価・課題・改善案 | 入館者前年比811人増により、入館料収入も157,740円増となったが、新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準には戻っていない。 |

C. 外部助成金等を獲得

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 特別展において「海の学びミュージアムサポート」の補助申請を行う                       |
| 自己評価・課題・改善案 | 令和3年度の特展において「海の学びミュージアムサポート」の補助金8,630(千円)の交付を受けて実施した。 |

D. 調査結果を受けた運営

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 調査結果を分析し必要に応じて運営方法の改善を行う。                                     |
| 自己評価・課題・改善案 | 個別の調査結果を分析し必要に応じて各イベント運営方法の改善を行った。イベント全体の分析と運営方法の改善が今後の課題である。 |



#### 4. 学習支援・教育普及活動・人材育成

|           |  |
|-----------|--|
| 館長による所見   | <p>学校の遠足対応やモノづくり体験、ふどきっずなど、学習支援・教育普及活動は紀伊風土記の丘が全国的に進んだ状況にあったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、遠足受入やイベントの大半を中止もしくは縮小を行わざるを得なかったが、そのような状況においても、感染対策を講じたうえで、一定の活動を実施した。</p> <p>人材育成につながる業務として、博物館実習・インターンシップ・教員研修の受け入れや、ジュニア考古学の募集・展示等は実施した。</p>   |
| 評価部会による所見 | <p>コロナ禍においても、事業が一定数実施されたことやわかやま古墳ガイドの作成したことは評価する。</p> <p>しかし、学芸員は研究時間も必要なので、やりすぎないように留意してほしい。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策の関係で学校を対象とする諸活動は困難な状況にあったが、感染対策を講じながら継続して取り組み、次第に活動参加者や来館団体数を回復させつつある。とくに、遠足対応などその他限られた体制での努力を感じるとともに、出前授業が例年並みに実施できたことが喜ばしい。</p> <p>人材育成につながる博物館実習生・インターンシップ生の受け入れや、学校教育面との連携の強化につながる教員研修への協力、ジュニア考古学の募集にも継続して取り組んでいる。</p> <p>小学校高学年社会科の学習課程の弾力化に伴い、今後は学校との細やかな連絡相談体制をつくることを望む。</p> <p>勾玉キットの販売が一定の収益をあげたことは、今後の博物館活動を考える上で興味深い。</p> |

##### ①学校・団体の利用

###### A. 学校・団体の受入数、受入人数。(一般団体除く)

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | <p>新型コロナウイルスの影響を想定できないため、目標数は設定しない。引き続き、県内、他府県及び各種団体へもPRする。訪問先の学校等では具体的なプランやカリキュラムへの位置づけを示す。また、引き続き、中高生へもPRする。</p> |
| 自己評価・課題・改善案 | <p>来館は、82校(前年比:7校増)・4,587人(同:790人増)となったが、いずれも新型コロナウイルス感染症拡大以前の約7割に留まる。</p>   |

###### B. 出前授業の件数、利用者数。

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | <p>新型コロナウイルスの影響を想定できないため、目標数は設定しない。県内の遠方を含む来館実績のない学校等に出向いて出前授業の内容、カリキュラムへの位置づけ、具体的な単元設定の説明を行う。</p> |
| 自己評価・課題・改善案 | <p>出前授業数は29団体と横ばいの状態である。</p>   |

###### C. 職場体験実習・職場体験学習の受入数。

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | <p>高校生及び大学生インターンシップ、就業体験、実習訓練等について、人員、日程等を勘案し、可能な範囲で各数名程度受け入れる(前年並み)。</p> |
| 自己評価・課題・改善案 | <p>中学生職場体験など24名、高校生インターンシップ4名、大学生インターンシップ2名を受け入れた。</p>                    |

###### D. 利用者の満足度、ニーズ

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | <p>遠足等実施前後に教員等から遠足の目的やカリキュラム上の位置づけ等の意見を聴取する。また、学校を訪問した際、校長等から聞き取りを行い、遠足実施の評価や新たなニーズを把握する。</p>                      |
| 自己評価・課題・改善案 | <p>事前打ち合わせの後及び実施後聞き取りを行った。体験学習等に関する改善要望は特になく、学習のねらい、内容のニーズに応えられている。今後も意見の聴取を行い、児童生徒、学校の学習やねらい等のニーズに応じた学習支援を行う。</p> |

## ②講演会・博物館講座・展示解説等

### A. 講演会・博物館講座・展示解説等の回数。

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 新型コロナウイルスの影響を想定できないため、目標数は設定しない。十分な安全対策を講じた上で実施する。 |
| 自己評価・課題・改善案 | 講演会・講座・展示解説については、当初の2分の1の定員で安全対策を講じて実施した。          |

### B. 講演会・博物館講座・展示解説等の参加者数。

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 募集定員の50%以上(前年度目標並み)。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、募集定員は会場収容人数の50%とする。 |
| 自己評価・課題・改善案 | 新型コロナウイルス感染防止対策のため、募集定員は会場収容人数の50%とした。その結果、おおよそ定員を満たした。    |

### C. 参加者の満足度、ニーズ

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | アンケートにより把握する。また、講演等終了後直接聞き取りを行う。         |
| 自己評価・課題・改善案 | 各講座・講演会ごとにアンケートを実施し、その都度発表内容・方法について調整した。 |

## ③体験学習・ワークショップ・関連行事等の体験的プログラム。

### A. 体験学習等の回数。

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 新型コロナウイルスの影響を想定できないため、目標数は設定しない。体験の種類ごとに安全対策を講じた上で実施する。感染リスクの少ない体験イベントを追加実施するなど柔軟に対応する。園内ポスターやホームページ、マスコミ等により広報を充実させる。 |
| 自己評価・課題・改善案 | 新型コロナウイルス感染症拡大の影響をが長引いたため、体験学習回数は31回にまで激減した。開催に当たっては、基本的な感染症対策を十分に講じたうえで実施した。  |

### B. 体験学習等の参加者数。

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 募集定員の80%以上(前年度目標並み)。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベント内容に応じて募集定員を減らすなどの対策を個別に検討する。 |
| 自己評価・課題・改善案 | 講座・講演の募集定員を2分の1としたため、募集定員に対しては80%以上の参加者があったが、全体としては減少した。                |

### C. 参加者の満足度、ニーズ

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | アンケート及び参加者に直接聞き取りを行い、満足度をチェックする。必要に応じて次回以降の体験に反映する。   |
| 自己評価・課題・改善案 | 満足度は5段階評価で「とても満足した」が86.2%、「満足した」が6.6%、「ふつう」が5%、「少し満足できなかった」が1.8%、「満足できなかった」が0.3%、無回答が0.1%であった。上位2段階の評価が約93%を占め、満足度は非常に高い。引き続きニーズや満足度等の聞き取りを行いながら、イベント内容を検討し、実施する。 |

## ④博物館実習

### A. 博物館実習生・インターンシップなどの受け入れ

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 人員や日程等を鑑み、可能な範囲で博物館実習生・インターンシップなどを受け入れ、考古・民俗学に興味を持ってもらうとともに、仕事に対する意欲、関心を高めてもらう。 |
| 自己評価・課題・改善案 | 8月に博物館実習7名、大学生インターンシップ2名の受け入れを行った。  |

## ⑤ボランティア

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | ボランティア養成講座により新たなボランティアを養成する。活動中のボランティアの育成及び活動の支援並びに連携を実施するとともに生涯学習に役立てる。 |
| 自己評価・課題・改善案 | ボランティア養成講座を開催し、8名のボランティアを養成した。   |

## ⑥県内博物館施設との連携

### A. 連携事業の実施

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | スタンプラリー、風土記まつり等の実施により、県立博物館4館で連携事業を実施する。    |
| 自己評価・課題・改善案 | 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、風土記まつり等人が集まるイベントは中止した。 |

## ⑦県民ニーズに即した運営

### A. 入館料以外のその他の収入

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 新型コロナウイルスの影響を想定できないため、目標収入は設定しない。                         |
| 自己評価・課題・改善案 | 出前授業の実施や勾玉キットなど自宅で体験できるものを販売することにより、1,175(千円)の一定の収入を確保した。 |

### B. 上記結果を受けた運営

|             |                                       |
|-------------|---------------------------------------|
| 令和3年度目標     | 上記結果及びアンケート等を分析し県民ニーズに即した運営となるよう検討する。 |
| 自己評価・課題・改善案 | 新型コロナウイルス感染拡大防止を念頭に置いて、対処した。          |

## 5. 博物館の運営

|           |   |
|-----------|---|
| 館長による所見   | <p>紀伊風土記の丘の新館建設計画を着手する見通しとなっているため、その必要作業を着実に進める。さらに、古墳群の整備事業やホームページ・3Dコンテンツの作成など、新館建設に関連する必要な作業を進める。</p> <p>イベントの中止や参加者数の減などの活動制限もあり、入館者数は全体として減少しているが、「おうちで勾玉づくり」セット販売は好調であり、工夫しながら博物館活動を続ける。今後も、状況に応じて、柔軟に対応していく。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、クレジット決済を導入し、決済方式の充実を図った。</p>   |
| 評価部会による所見 | <p>新型コロナ感染症対策のため、イベントの中止や変更、団体利用者の減少などの厳しい環境にありながら、企画の形態を工夫し、クレジット決済の導入など事務処理方式の改善を図り、学習活動に利用できる新たなグッズを開発するなど、意欲的に努力を積み重ねている点を高く評価する。</p> <p>新館建設が間近に迫っており、準備作業が順調に進んだものと評価するが、今後、新館での活動を想定した、さまざまな試みへの挑戦を望む。</p> <p>古墳の石室内部を体感できる3Dコンテンツの作成など、古墳群の整備とも連動する新博物館での活用素材の開発にも取り組んでいる。</p> <p>園内の利用者数に大きな変動はないことは、風土記の丘が近隣にある公園空間として定着していることを示していると言える。地形や植生面の適切な管理と、古墳群の整備管理とが、将来は今まで以上に博物館の活動への評価と切り離せないものとなる可能性を示す。</p> <p>新館建設の計画の中で、移築民家の活用は重要な柱の一つになるであろうから、日本民俗建築学会で蓄積されてきた成果を活用してほしい。</p> |

### ①組織・人員

#### A. 危機管理・防災体制についてマニュアルを作成、実地訓練等及び同体制についての日常的な取り組み

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 紀伊風土記の丘の防災計画指針・紀伊風土記の丘暴漢等侵入者対応指針について、職員全体で読み合わせを行い、役割分担等を確認する。また、防災訓練等を行う。                          |
| 自己評価・課題・改善案 | 当館における「自衛消防組織」及び「暴漢等侵入者対応組織」のマニュアルを作成し4月の全体会議で職員に役割分担の確認を行った。文化財防火デーに合わせて防火訓練を行い、有事の際の役割、動きの訓練を行った。 |

#### B. 個人情報の適切な保護・データ管理

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 令和3年度目標     | 和歌山県個人情報保護条例に基づいて行う。 |
| 自己評価・課題・改善案 | 和歌山県個人情報保護条例に基づいて実施。 |

#### C. 館内外の研修に対する職員の参加体制及び参加実績

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 職員に可能な限り受講を奨励し、研鑽を積む。必要な情報は全員参加の館内研修や月例会で共有する。                        |
| 自己評価・課題・改善案 | 教育庁及び館内の人権研修を受講し情報共有を行った。また、専門的な研修等スキルアップのための外部研修には業務の都合等により出席できていない。 |

## ②県民ニーズに即した運営

### A. 園内利用者数: 当該年度の利用者数

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 新型コロナウイルスの影響を想定できないため目標数は設定しないが、受け入れ可能な環境は整える。                          |
| 自己評価・課題・改善案 | 195,188人(前年度比100.4%)。H25年頃から入館者と同様に減少傾向にあったが、微増に転じた。今後も魅力ある史跡整備、広報に努める。 |

### B. 民家利用件数: 当該年度の利用件数

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 新型コロナウイルスの影響を想定できないため、目標数は設定しない。申請があれば、従来どおり受け入れる。       |
| 自己評価・課題・改善案 | 民家を利用しての昔のくらし体験は減少したが、自由にウォーキングをする来園者や民家散策者数は例年並みとなっている。 |

## ③施設設備の維持管理

### A. 施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、改修や修繕、衛生管理

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 建築・設備などの定期点検を実施、改修等は緊急性を考慮し予算内で実施する。   |
| 自己評価・課題・改善案 | 日常、職員による施設の目視点検を行い、日誌に記録。毎年、建築基準法第12条に基づく定期点検業務を実施。<br>また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年度のpaypayに続き、クレジット決済を導入し、県民のニーズに答えるべく設備の充実を図った。 |

### B. 園内の日常的なメンテナンス等による施設の美観の保持、衛生管理

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 館の業務員により計画的に実施。大規模な整備・営繕等は緊急性を考慮し予算内で実施 |
| 自己評価・課題・改善案 | 日常、職員による園内の目視点検及び必要に応じて修繕対応。            |

### C. 民家の日常的なメンテナンス等による施設の保守管理、毀損個所の修繕や予防措置

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 館の業務員により日常的なメンテナンスを毎日実施。修繕等は緊急性を考慮し予算内で実施。毎日業務日誌をつけて確認をする。                   |
| 自己評価・課題・改善案 | 今後も引き続き実施。来園者、来館者に安心安全に利用いただくため、毎日職員による目視点検を行い、日誌に記録。必要に応じて設備等の修繕等、整備を行っている。 |

### D. 新館建設計画・各民家の保存活用計画

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 岩橋千塚古墳群保存活用計画の内容を踏まえ、新館建設基本計画を策定する中で、資料館、民家を含む活用方針を検討する。 |
| 自己評価・課題・改善案 | 県立考古民俗博物館(仮称)基本計画の中で、史跡地内に含まれる移築民家の活用について定めている。          |

## ④快適性の向上

### A. バリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等の対応

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | バリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等への対応を検討する。特に障害者差別解消法施行に伴い、職場研修を行うとともに、ハード面、ソフト面において可能な範囲で合理的配慮を行う。   |
| 自己評価・課題・改善案 | バリアフリー対策はハード面、ソフト面ともに可能な範囲で対応済みである。特にソフト面については、1月に職員人権研修を行い職員全体で対応マニュアルの確認及び合理的配慮の必要性を確認した。令和4年度も引き続き実施する。今後は、新館構想に合わせ、より分かりやすく、すばらしい合理的配慮の提供を検討、実施する。 |

### B. 快適性の向上について上記以外の整備

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 県民が園内全体において快適に利用し、心身ともに満足してもらえるよう取り組む。  |
| 自己評価・課題・改善案 | 平成28年に特別史跡に追加指定された天王塚古墳について、平成30年度から公開活用のために必要な管理用道路の整備を進めており、令和4年度中に完成を予定している。 |

## ⑤民家

### A. 計画的な公開

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 恒常的に清掃を行い、案内資料を置いて、引き続き入りやすい落ち着いた空間としての状態を保つ。               |
| 自己評価・課題・改善案 | 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、当初予定のイベントの開催は中止したが、日常的な管理を行い、公開を行っている。 |

### B. 建物の個性・魅力をひきたてる活用

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 特別展期間中に漆器問屋である柳川家住宅と漁家である旧谷山家住宅の特徴を伝える資料を展示する。 |
| 自己評価・課題・改善案 | 令和3度特別展では、漁家である旧谷山家住宅にて、漁具の展示を行った。             |

## ⑥広報・情報発信

### A. 県民からの直接的情報提供：問い合わせ（電話、来館等）に対する適切な対応

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | 相談者個々に対して丁寧に適切な対応をすることを職員一同確認する。            |
| 自己評価・課題・改善案 | 個々の問合せを適切に対応し、特に問題はなかった。今後も引き続き同様に丁寧な対応を行う。 |

### B. メディアへの情報発信

|             |  |
|-------------|--|
| 令和3年度目標     | 各月ごとに加えて参加者が少ないと見込まれるイベントについて記者クラブへ資料提供を行う。特別展、企画展やイベントについて、直接メディアに出向いて広報する。 |
| 自己評価・課題・改善案 | 各イベントを報道関係に資料提供した。加えて新聞社やテレビ局に出向いて広報を行った結果、テレビ、新聞等数多く取り上げられた。                |

### C. ホームページによる広報：ホームページアクセス件数、更新回数。

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | ホームページ及びFacebookの閲覧数ともに令和元年度を上回るよう、即時的にイベントの情報や結果、満足度を広報するなど内容の充実化を図る。ホームページの充実のために、動画公開を進める。 |
| 自己評価・課題・改善案 | ホームページに動画を投稿して、園内案内や埴輪・勾玉の作り方などをみられるようにしている。FacebookやTwitterで月に3～5回情報発信をし、好評を得ている。            |

### D. 広報印刷物の制作：ポスター、チラシ等の情報提供、広報活動

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | イベントガイド、特別展ポスター・チラシを作成。その他の展示・イベント等はプリンター・輪転機により作成。市町村教育委員会校長会に出向いて直接校長へアピールするとともに、必要に応じて和歌山市及び近隣市町村内小中学生全員にチラシを配布する。 |
| 自己評価・課題・改善案 | イベントガイド等チラシ・ポスター作製を行い、1,582件への郵送並びに必要なに応じて和歌山市及び近隣市町村内小中学生全員にチラシを配布するなどして、周知を図った。                                     |

### E. 使命、目標、計画等の公開

|             |   |
|-------------|---|
| 令和3年度目標     | ホームページに公開する。                                    |
| 自己評価・課題・改善案 | ホームページで博物館評価制度、和歌山県立考古民俗博物館（仮称）基本計画書について公開している。 |